
コードギアス～孤高の騎士～

朧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コードギアス〜孤高の騎士〜

【Nコード】

N5892Z

【作者名】

朧

【あらすじ】

ある日、皇宮内で1人の皇妃が暗殺された。それに端を発し、後ろ盾だった有力貴族の衰退。皇妃の2人の子どもは、人質として送られることになった。そんな時、1人の【ナイトオブブラウズ】が皇族として復活する。彼の名は、クリストファー・シード。かつては皇子であった彼が、再び皇子となったのである。

Scene - 0 秘めた悲しみ（前書き）

さて、息抜き小説のお披露目です。

だが、しかし！

期待はしないで下さいね。

たいした作品ではないです。

大前提としてあるのは、【コードギアス A V E N G E R 狂王のライ〜】の更新再開までのつなぎ作品です。

クオリティは低いので、宇宙のように広い心でご覧になってください。

最後に、更新は超亀更新です。

Scene - 0 秘めた悲しみ

黒髪にパープルの瞳をした少年は、玉座に座る男に背を向けると潤んだ両目を拭い玉座の間を後にした。

玉座に座る金髪の男は、毅然とした態度で歩き去っていく少年を送る。

だが、男の視線は極めて厳しい目付きだった。

少年の背を、周囲に居た煌びやかな衣装に身を包んだ男女たちは、口元に笑みを浮かべながら見送ったのだった。

その夜。

玉座に静かに座る男。

目を閉じ、何かを待っているように見受けられる。

その時、玉座の間の扉が開き何者かがやって来たようだった。

男はゆっくりと目を開くと、目の前にまでやって来た少年を見る。

少年の顔にはまだ幼さが残りつつも、その瞳は鋭く精悍な顔つきをしていた。

「来たか」

「何か御用でしょうか、皇帝陛下」

「とぼけるでない。察しはついているだろう」

男、シャルル・ジ・ブリタニアはニヤリと笑みを見せる。

世界の3分の1を支配する、神聖ブリタニア帝国の皇帝の座についている男だ。

「……………」

その大国の皇帝と向かい合うのは、クリストファー・シード。

ブリタニアが世界に誇る、帝国最強の騎士【ナイトオブラウンス】に名を連ねる騎士である。

ラウンスそれぞれで異なる色のマントを付けている。

クリストファーの背には、真紅のマントがあった。

シャルルの言葉に、クリストファーは何も言うことは無い。

実際、シャルルの言葉通りだった。

秘密裏に、夜中に呼ばれた理由も見当は付いている。

「マリアンヌ皇妃のことですか？」

「そうだ。マリアンヌが死んだ」

「……………」

「……………」

シャルルの告げた母の死にも、クリストファーに動揺は見られない。

すでにクリストファアの知っていた情報ではあるが、母の死だといふのに動揺が無い。

「動揺を見せない、か。さすがは【ナイトオブブラウンズ】だな」

「本題に入って頂きたいのですが」

「・・・良からう。マリアンヌの死、後ろ盾でもあったアツシユフオード家の衰退。さらに、皇位継承権の破棄宣告、重度の障害ということが起きた」

「2人を、人質として送ると？送り先は、日本ですか？」

シャルルの言葉を遮るかのように告げた、クリストファアの言葉にシャルルはわずかに驚いた表情を見せる。

だが、その驚きの表情もすぐに消えると、その顔には笑みが浮かぶ。

「その通りだ。そこで、一度は破棄した皇位継承権を復活させたい。クリストファア・ゼ・ブリタニア、我が息子よ」

「・・・」

皇帝であるシャルルの息子ということは、クリストファアも皇族。

だが、クリストファアは物心ついた時には皇位継承権を破棄していた。

理由は至って単純。

そんなものに興味は無かったからだ。

さらに、腹違いの弟と妹の人質の事実でさえも、クリストファアは淡々と口にする。

「・・・」自由にどうぞ。ですが、1つだけ」

「何だ」

「皇位継承権を復活させても、今の【ナイトオブブラウズ】のまま
で」

「問題無い。それは、ワシの望みでもある」

「では、私はこれで失礼します」

クリストファーは踵を返すと、それ以上は言うことは無いとばかり
に部屋を退出する。

クリストファーは夜中の通路を1人歩いていると、ふと足を止め窓
の外に見える星空を見上げた。

「・・・」

静寂だけが支配する空間の中、クリストファーの両手に力が籠もっ
ていく。

「・・・」

クリストファーは空を眺めながら、小さく一言呟いた。

だが、その言葉は小さく、誰もいない静寂へと消えていった。

クリストファーは再び正面を向くと、感情の無い顔で歩き出したの
だった。

S c e n e - 0 秘めた悲しみ（後書き）

何でしょうね、この作品は。

息抜き作品ですので、感想も厳しいのはご勘弁願います。

変なところもスルーしてください。

オリキャラ・オリKMF紹介

クリストファー・シード

誕生日

皇暦1993年12月24日

（原作開始時、14歳）

血液型

B型

身長168cm

（現在も成長中）

搭乗騎

ゲライント

備考

歴代最年少の14歳で【ナイトオブブラウズ】に就任した実力者。

与えられた数字は8。

出自のほとんどが不明だったが、実際は皇族の出身。

だが、クリストファーが幼い時に母が病死。

それと同時に、後ろ盾となっていた貴族が掌を返したように去って
いってしまった。

クリストファーは母が病死する前に、自ら皇位継承権を破棄したため護ってくれるものはいなかった。

破棄した理由は、単純に皇位などに興味が無かったためである。

貴族が去って行ったのも、このことが関係していると思われる。

これらのことから1人で生きていくことを決め、士官学校に入学した。

士官学校は飛び級で卒業し、士官学校恒例の4期生時での実戦時にはナイトオブフォー、ドロテア・エルンストの下で実戦を経験。

士官学校生ながら高い実力と戦術眼を発揮し、大きな戦果を上げる。

戦場では単独行動を好み、プライベートにおいても1人でいることを好むことから【孤高の騎士】と呼ばれるようになった。

味方からは、マントのカラーとKMFCカラーが紅であることと髪が漆黒であることから、【紅黒の騎士】とも呼ばれる。

だがある日、腹違いの弟妹であるルルーシュとナナリーが皇族の名から抹消されたため、シャルルは有能となったクリストファーに目を付け、皇族に復帰させる。

クリストファー自身としては拒否したかったがラウンズである以上、皇帝からの命令は絶対であるためラウンズのままでいることを条件に了承。

ルルーシュとナナリーが人質に送られたことを知りつつも表面には

出さないが、内心では何も出来ない自分に歯痒さを覚え、心を痛めている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5892z/>

コードギアス～孤高の騎士～

2011年12月19日20時54分発行